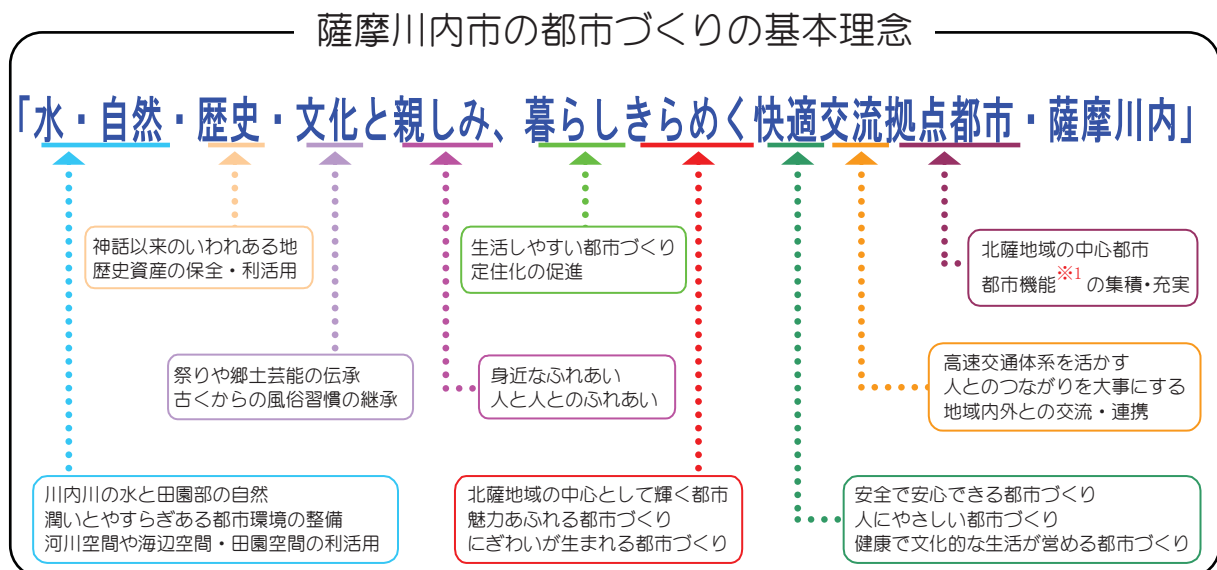


## 第4章 薩摩川内市の将来都市像

### 4-1 都市づくりの基本理念

薩摩川内都市計画区域においては、本市の都市づくりの指針である「第2次薩摩川内市総合計画」で掲げられている「人と地域が躍動し 安心と活力のあるまち 薩摩川内」という将来都市像を踏まえた都市づくりの実現を目指すことが必要です。

そこで今後の都市づくりのあり方として、平成19年3月に策定した都市計画マスタープランにおける都市づくりの基本理念を継承し、その実現に向けた基本方針について社会情勢の変化等に伴う見直しを行い、新たな基本方針として掲げることとします。



※1 (122 ページ)

## 4-2 都市づくりの基本方針

### 都市機能の集積により躍動する交流拠点都市としての確立

九州新幹線や南九州西回り自動車道などの高速交通体系との連携による産業・経済・文化・観光などでの広域交流圏の拡大化に対応し、川内駅が有する交通結節機能の維持・向上や南九州西回り自動車道インターチェンジへの交通ネットワークの強化、高度情報通信化への対応、公共交通機関の利用促進などを図ります。

それらとともに、地域拠点への都市機能の集積・充実、公共交通ネットワークとの連携等による多極ネットワーク型コンパクトシティ※2の形成を図りつつ、都市全体の活力を牽引し、北薩地域の中心都市として躍動する交流拠点都市づくりを目指します。

### 自然や歴史、文化と人々の暮らしが育む豊かな都市環境の創造・活用

一級河川川内川をはじめその支流の高城川、隈之城川、八間川、樋脇川や市比野川など、多くの河川や豊かな自然環境の保全・利活用を図るとともに、本市固有の風土と人々の暮らしにより醸成されてきた貴重な歴史や文化を育みつつ、豊かで潤いある暮らしの舞台としての都市環境の保全・創出を目指します。また、その豊かな都市環境を活かすことにより、多様な魅力を有する都市づくりを目指します。

### 計画的な土地利用・都市施設の機能的な配置による快適で安全・安心な生活空間の形成

効率的な都市活動の基盤づくりとして、無秩序な開発を抑制し、計画的な土地利用の誘導と社会資本整備を図ります。

また、都市防災や環境・エネルギー対策に配慮しつつ、道路・河川・公園・公共下水道など都市施設の機能的な配置を図り、快適で安全・安心な生活空間の形成を目指します。さらには、九州新幹線や南九州西回り自動車道などの高速交通体系を活かした、計画的な市街地整備等による宅地の利用増進を図るなど、県都鹿児島市などへの通勤圏内として本市の定住人口の増加による都市活力の維持・向上を目指します。

※2 (121 ページ)

## 4-3 都市づくりの進むべき姿

### (1) 今、コンパクトシティを目指すのは

現在、日本全国多くの都市において人口減少と少子高齢化が深刻な課題となっており、それを踏まえた都市づくりは避けられません。そこで、目指すべき都市づくりの姿の一つとして「コンパクト＋ネットワーク」が国において示されています。

これは「自動車利用を前提とした新たな土地への財政投資による市街地を整備する形での都市の発展・拡大」を目指したこれまでの都市づくりから、すでに整備されてきた市街地の商業・医療・福祉といった都市機能施設を活用・集約した拠点を形成し、歩いて暮らせるまちとするとともに、その拠点間を公共交通でネットワーク化した「多極ネットワーク型コンパクトシティ」の実現により、都市の活力を維持・創出し持続可能な都市構造を目指すものです。

薩摩川内市においても、川内地域を中心とした北薩地域の拠点を担う市街地をはじめ、歴史的な市街地、温泉地等、多様なタイプの拠点となる既成市街地を各地に有しており、それらを活かして誰もが暮らしやすく安心して住み続けられる都市づくりを行う必要があります。

「多極ネットワーク型コンパクトシティ」が形成されることで、市民や事業者、行政等には以下のようなメリットがあります。

#### 市民のメリット

- 拠点内で過度に車に頼らず、高齢者をはじめ誰もが歩いて買い物や病院に行くことが可能
- 拠点間の公共交通の利用により大型商業施設や総合病院に移動可能
- 地域の特徴を活かした拠点の形成により、地域コミュニティの活性化・維持が図られる

#### 事業者※のメリット

- 施設利用者人口の確保が図られる
- 様々なサービスの効率化が可能
- 既存施設の活用等により事業投資の効率化が可能

#### 行政のメリット

- インフラ整備、維持・管理費の抑制
- 商業、医療、福祉等都市づくりに関する支援の集中投資による財政の効率化
- 既成市街地の活性化

#### その他のメリット

- 医療・福祉：歩いて暮らせるまちづくりによる高齢者の健康増進及び社会保障費の抑制
- 地球環境：CO<sub>2</sub>排出削減による温暖化防止
- 防災：集住による迅速、効率的な避難誘導

※商業、医療、福祉等を経営する者

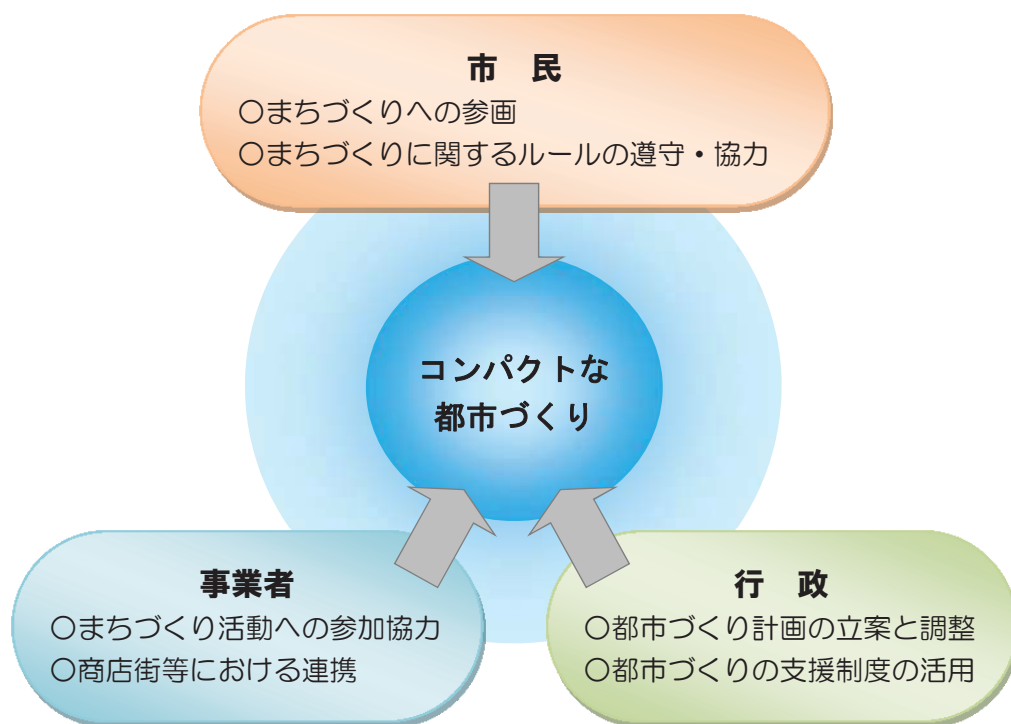


図 32 コンパクトな都市づくりへの取組み

## (2) 薩摩川内市の都市づくりの進むべき姿

- 高次の都市機能を有する中心的な拠点となる中心市街地と日常的な生活サービス機能、防災機能等を提供する地域拠点の配置形成及び公共交通ネットワークの最適化により、多極ネットワーク型コンパクトシティの形成を図ります。
- 都市形成にあたっては、公共施設跡地や空き家、空き店舗等を有効に活用するとともに、ICT、次世代エネルギー等の技術導入を図り、それぞれの地域に対応した生活支援サービスの提供に努めるなど、地域資源を活用した地域環境の形成を図ります。

## (3) 多極ネットワーク型コンパクトシティの実現に向けた拠点の考え方

### 【都市拠点】

- 中心市街地を「都市拠点」と位置づけ、地域の核となる医療・福祉・商業等の生活サービス機能の充実及び鉄道やバス等による公共交通ネットワークの再構築による機能強化を図り、広域交流が可能である川内駅の利便性を活かした、にぎわいのある北薩地域の陸の玄関としてふさわしいまちづくりの推進を図ります。また、点在する空き家、空き店舗等を有効に活用するとともに、民間活力、ICT、次世代エネルギー等の技術の導入により、都市型環境整備を進め他地域をリードする土地利用の形成を図ります。



川内駅周辺

### 【地域拠点】

○樋脇の塔之原中心部及び市比野温泉街付近、入来の温泉場地区付近、東郷の斧渚で公共施設が集積する付近を「地域拠点」と位置づけ、各地域の特徴を活かした地域拠点としての形成を図ります。

○塔之原中心部及び市比野温泉街付近の地域拠点においては、地域住民の日常生活を支える商業・業務機能等の生活サービス機能の充実を図るとともに、地域住民等と連携し、来街者にとっても魅力ある観光地の育成に努め活性化を図ります。また、樋脇高校跡地等を有効に活用し、資源を活かしたまちづくりの推進を図ります。

○温泉場地区付近の地域拠点においては、地域住民の日常生活を支える商業・業務機能等の生活サービス機能の充実を図るとともに、地域住民等と連携を行い、来街者にとっても魅力ある観光地の育成に努め活性化を図ります。

○斧渚地域の公共施設が集積する地域拠点においては、地域住民の日常生活を支える商業・業務機能等の生活サービス機能の充実を図ります。また、東郷小学校及び東郷中学校の統廃合後の跡地については、まちなかの資源としての有効活用を検討し、まちづくりの推進を図ります。



樋脇町市比野



入来町副田



東郷町斧渚

### 【流通・産業拠点】

○川内港ターミナル周辺を「流通・産業拠点」と位置づけ、川内港と甑島間を結ぶ高速船やバス等による交通結節機能を活かし、観光を含めた地域内外の交流を促進するとともに、重要港湾川内港と西回り自動車道インターチェンジ周辺に配置する特定用途制限地域※3等と連携し広域交通体系の利便性を活用した流通・産業拠点としての形成を図ります。



川内港ターミナル

### 【広域的な防災拠点】

○薩摩川内市総合運動公園を「広域的な防災拠点」と位置づけ、日常的な交流拠点であるとともに、次世代エネルギー等の様々な手法を用い、災害時における避難所としての機能充実と併せて、身近な公共施設である小中学校等との連携に努め、広域的な防災拠点としての形成を図ります。



薩摩川内市総合運動公園

## 【防災医療拠点】

○市民病院周辺を「防災医療拠点」と位置づけ、日常的な市民の利用とともに、災害発生時に広域的な災害医療を担う機能を活かし、円滑な交通体系等の充実や様々な手法による機能充実と併せて、身近な公共施設である小中学校等との連携に努め、周辺地域を含めた防災医療拠点としての形成を図ります。



福祉の里

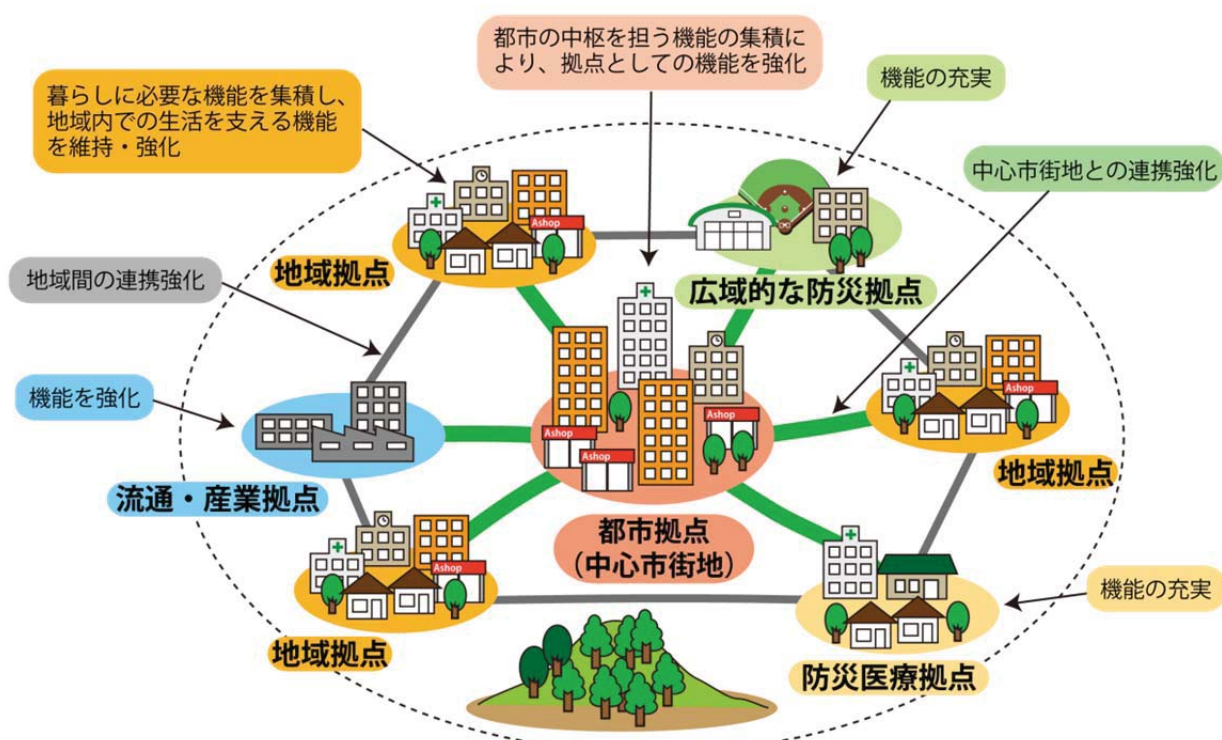
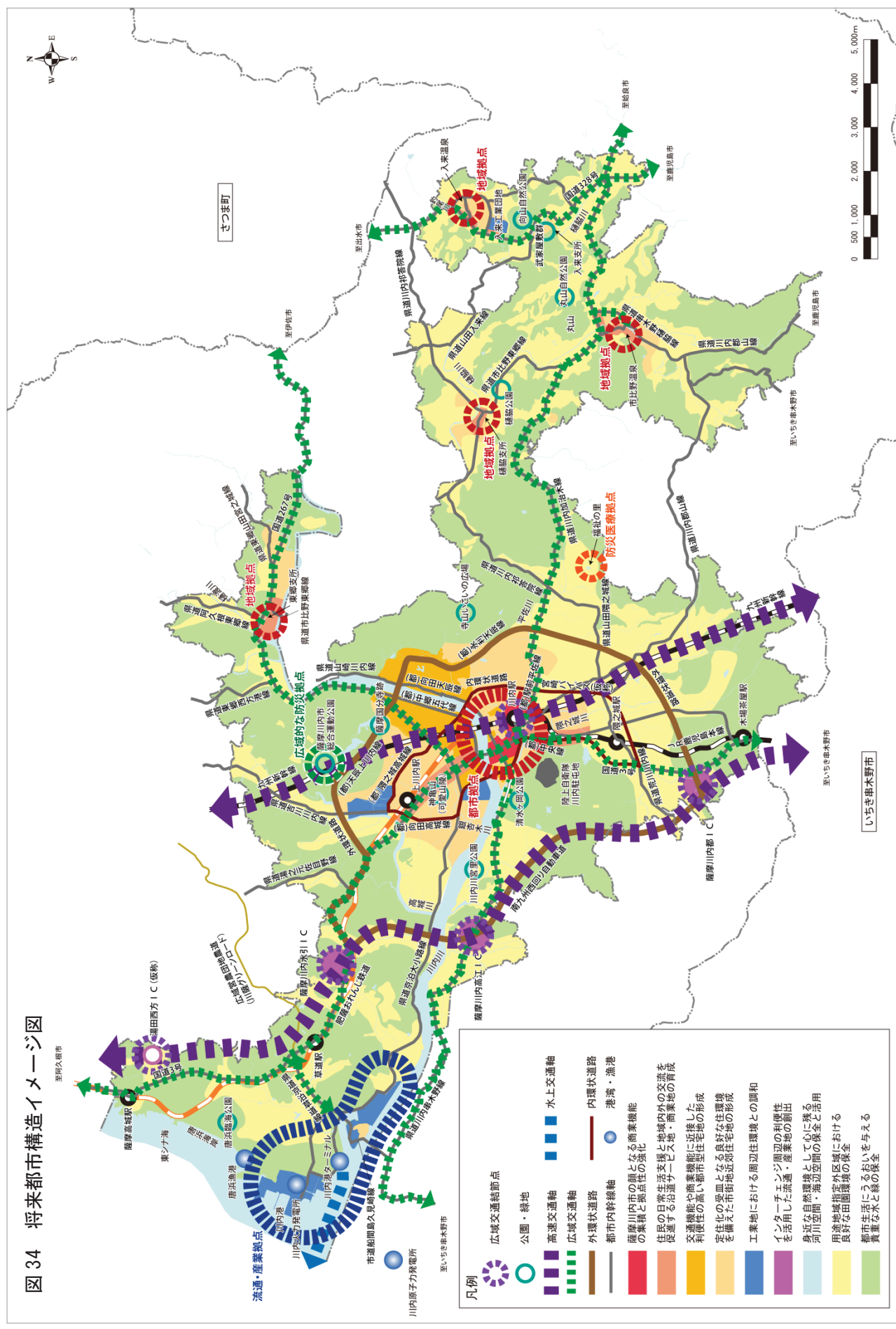


図 33 薩摩川内市における多極ネットワーク型コンパクトシティのイメージ

図34 将来都市構造イメージ



## 4-4 都市づくりの体系

水・自然・歴史・文化と親しみ、暮らしきらめく快適交流拠点都市・薩摩川内

水・自然

- ・川内川の水と田園部の自然
- ・潤いとやすらぎある都市環境の整備
- ・河川空間や海辺空間・田園空間の利活用

歴史

- ・神話以来のいわれある地
- ・歴史資産の保全・利活用

文化

- ・祭りや郷土芸能の伝承
- ・古くからの風俗習慣の継承

親しみ

- ・身近なふれあい
- ・人と人とのふれあい

暮らし

- ・生活しやすい都市づくり
- ・定住化の促進

きらめく

- ・北薩地域の中心として輝く都市
- ・魅力あふれる都市づくり
- ・にぎわいが生まれる都市づくり

快適

- ・安全で安心できる都市づくり
- ・人にやさしい都市づくり
- ・健康で文化的な生活が営める都市づくり

交流

- ・高速交通体系を活かす
- ・人とのつながりを大事にする
- ・地域内外との交流・連携

拠点都市

- ・北薩地域の中心都市
- ・都市機能の集積・充実

都市づくりの  
基本方針

都市機能の集積  
により躍動する  
交流拠点都市と  
しての確立

自然や歴史、文化  
と人々の暮らしが育む豊かな  
都市環境の創造・活用

計画的な土地利用・都市施設の  
機能的な配置による快適で安全・安心な生活  
空間の形成

土地利用

- 中心市街地の活性化
- 沿道商業業務施設の適切な立地誘導
- 地域の中心を担う市街地の機能更新と活力維持
- 既存工業地の有効活用
- 川内港やインターチェンジ等の機能を活かした計画的な土地利用
- 中心市街地における利便性の高い住宅地の形成
- ゆとりある良好な住宅地の形成
- 既存の住宅地における住環境の改善
- 無秩序な開発の抑制による低密な市街地の分散防止
- 良好な緑地や水辺、歴史的資産の保全と活用
- 優良農用地及び農村集落の維持・保全

市街地整備

- 市街地開発における効果的な対応策の検討
- 土地区画整理事業完了地区における適切な建築誘導
- 土地区画整理事業の計画的な事業推進
- 土地区画整理事業による整備の検討
- 市街地開発における効果的な対応策の検討
- 川内川川内市街部改修と合わせた市街地の形成

都市施設（道路・交通）

- 「2環状8放射道路網」の構築促進による円滑な交通体系の実現
- 地域公共交通ネットワークの強化
- 広域的な交流を促進する各拠点間のアクセス強化
- 安全・安心な生活道路の改善・整備
- 商業地における駐車場や駐輪場の整備
- 道路等の長寿命化

都市施設（公園・緑地）

- 身近な公園・広場の整備による公園不足地区の解消
- 魅力的な水辺空間等の整備・活用
- 災害時の避難場所や地域の防災活動の拠点となる公園・緑地の整備
- 自然的・歴史的資産を活用した公園・緑地の維持・活用
- 公園施設の適正な維持・管理と市民参画参加の推進

都市施設（その他）

- 地域の実情に応じた生活排水処理施設の整備促進
- その他都市施設の長寿命化

景観形成

- 「薩摩川内市ふるさと景観計画<sup>※4</sup>」における景観形成基本方針
- ゾーン別の景観形成方針

防災

- 河川流域における洪水対策や低平地部等での浸水対策
- 災害時の避難経路や避難場所の安全性の確保

※4 (118 ページ)